

第 27 回 長野県移動性・安全性向上検討委員会 議事要旨（案）

1. 開催概要

□開催日時：令和 7 年 3 月 18 日（火） 15：00～

□開催場所：国土交通省 長野国道事務所会議室

□議事次第

1 開催挨拶

2 委員紹介

3 議事

1. 長野県における交通渋滞対策について

(1) これまでの検討状況及び今回の議題

(2) 主要渋滞箇所の解除について

(3) 優先対策箇所について

(4) 松本市 TDM 施策について

(5) その他

(6) 今後の予定

2. 長野県における交通事故対策について

(1) これまでの取組経緯

(2) 長野県内の幹線道路交通事故対策

(3) 生活道路への取り組み

(4) 通学路への取り組み

3. その他

2. 質疑応答：長野県における交通渋滞対策について

- ：意見・質問・要望
- ：回答

(2) 主要渋滞箇所の解除について

【委員】

- 解除候補箇所の 2 箇所について、主要渋滞箇所に選定された当時の指標を確認しているか。また、解除候補箇所を審議する場合は、選定された当時の指標も資料に示していただくとより納得できると思われる。

【事務局】

- 2 交差点は平成 24 年度に主要渋滞箇所に選定された。当時は、民間プローブデータによる旅行速度の評価を行っていたが、近年は ETC2.0 データを活用した評価を行っており、3 年連続で指標をクリアしている。指標をクリアするに至った要因としては、道路ネットワークの整備や交通量の自然減少等によるものだと考えられる。

【委員長】

- 赤沼交差点は南側の柳原北交差点との信号サイクルの連動により流れている印象もある。一方で、清水 1・2 丁目交差点は、西側の元町交差点の影響もあると思われる。
- 当該区間を走行する ETC2.0 のサンプル数により指標をクリアしてしまうことも考えられるのではないか。また、民間プローブと ETC2.0 データのサンプル数の違いは分かるか。

【事務局】

- 当該区間を走行する ETC2.0 データのサンプル数は約 50 台/時存在している。民間プローブと ETC2.0 データのサンプル数の違いは確認していない。

【委員長】

- 2 交差点ともに「ルール 2：未対策が 3 年連続指標をクリア」による解除候補箇所ではあるが、信号サイクルの調整によって、隣接交差点まで滞留が影響しないように調整されている可能性もある。
- 清水 1・2 丁目交差点の右折率はどの程度か。

【長野県警察本部】

- 信号サイクルについては、カメラや車両感知器等を確認した上で、随時見直ししている。

【事務局】

- 右折率の調査は行っていないため回答は出来ないが、映像を見る限り多くはないと思われる。

【委員長】

- 2交差点を解除することについては、地元は納得しているのか。

【事務局】

- アンケートを行った長野建設事務所と諏訪市には交通状況及び解除候補箇所として審議することを説明しており、了解をいただいている。

【委員長】

- 2交差点について、今回解除するということで良いか。

【一同】

- 了解した。

【事務局】

- 解除箇所については、交通状況の補足資料などを今後整理する。

(4) TDM について

【委員】

- TDM 施策の取組みは継続することが良いと思われる。そのうえで、下記の2点について確認したい。
 - ①取組日以外でも継続したいと思われている人はどの程度いるか。
 - ②TDM 施策により車での移動時間が短縮すると思われるが、CO₂の削減効果は確認しているか。

【松本市】

- ①について、取組日以外でも継続したいという意見もあり、取組み以降も時差出勤に取り組んでいる企業もある。
- ②について、CO₂削減効果はあると思うが確認していない。CO₂削減の観点も、取組み以来の際に企業や市民に周知したいと思う。

(5) その他

【委員長】

- 軽井沢町のGWの渋滞について、地域住民への影響は把握されているか。地域住民の利用経路が裏道であれば、観光客を佐久平ICへ誘導するなどの対策も考えられるのではないか。

【事務局】

- 軽井沢町役場との調整も行っている中では、「商業施設」への交通集中が問題であるという認識を地域住民が持っていることは確認している。
- また、観光客による地域住民の利用経路への影響については、町も含め把握できてない状況である。

- 町内ではライブカメラを設置し、映像データを HP などで公開しているが、今後映像データの活用方法を検討していく必要がある。

【委員長】

- 観光客の利用経路と地域住民の利用経路とのバランスを今後考えていく必要がある。

3. 質疑応答：長野県における交通事故対策について

(2) 長野県内の幹線道路交通事故対策について

【委員】

- 意見照会シートによる関係部署への意見照会は良い取り組みだと思います。質問ですが、意見の中で、実際に事故があったと回答があります。4年間の事故データが漏れてしまっているのはどういう理由があるのか。

【事務局】

- 今回評価に使用したデータは平成30年から令和3年までの4年間分のデータになり、令和3年以降の事故データは評価の対象外となっている。

【委員】

- 承知した。意見照会の重要性を再認識した。相手に意見照会を実施するとき、最新の状況を確認した上で確認してほしいという風に伝えてほしい。

【委員】

- 21ページ回答者の一番右側欄に市町村名と警察署があるが、両方とも回答してもらったということによろしいか。

【事務局】

- 意見があった箇所のみを記載しており、回答は両方の回答者からもらっている。

【委員】

- 改善されていない箇所の3箇所はハード対策実施に向けた検討となっていて、残りの16箇所がハード・ソフトの両面から対策実施に向けて検討としている理由は何か。

【事務局】

- 事故が改善されていないため、可能な限りハード対策を実施してほしいという意味で記載をしている。

【委員】

- 対策の目的は事故削減であることから、「ハード対策実施に向けた検討を実施」を「ハード・ソフトを含めた対策を検討」の文言に変更してはどうか。

【一同】

- 了解した。

【委員長】

- 事務局から対策完了候補箇所 90 箇所のうち、19 箇所は追加対策の検討を行い、残りの 71 箇所は対策完了箇所とし、事故危険区間から除外してよいか。

【一同】

- 了解した。

会議状況写真

